

平素より大変お世話になっております。

デイサービス ELIFE HOME です。

日頃は、ご利用者様の支援において多大なるご協力を賜り、誠にありがとうございます。

今回は、当事業所をご利用いただいているご利用者様の支援を通じて見られた変化について、情報共有の一環として事例をご紹介します。



ケース：1 “帰りたい”から“行きたい”へ — 段階的支援で通所が定着した一例 —

■ 利用開始時の課題

ご利用開始当初は、認知症の影響もあり、デイサービスへ通うこと自体に強い抵抗が見られ、利用中も帰宅願望が著明な状況でした。

初回利用後は欠席が続き、ご家族様からは
「外出の機会が減り、ひきこもりがちで抑うつ状態が続いている。何とかしてあげたい」
とのご相談をいただいていた。



ELIFEHOMEでの関わり

諦めず、利用者様の気持ちを大切に



担当ケアマネジャー様、当法人クリニックと連携し、内服薬の調整を行ったうえで、初回利用から約4か月後に再度ご利用を再開しました。

まずは2週間に1回の通所から無理のない形でスタートし、2か月目には週1回へと段階的に利用回数を増やすなど、ご本人様の不安や負担に配慮しながら、少しずつデイサービスの環境に慣れていただけるよう調整を行いました。

現在の変化

歌声が響くようになるまで

現在は週2回のご利用で、欠席されることなく安定して通所されています。

他のご利用者様へ自ら話しかけ、コミュニケーションを楽しまれる様子も見られ、マシントレーニングにも積極的に取り組まれるなど、前向きな変化がうかがえています。

また、カラオケがお好きで、「昔の名前で出ています」「デカンショ節」「俺は待ってるぜ」などを披露され、その歌声がフロアを和ませる場面も見られています。

